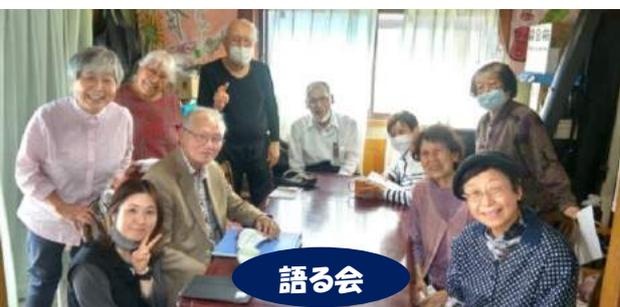


# わの会通信

Vol. 44

2022年8月15日発行 発行元：NPO法人わの会 住所：府中市住吉町1-60-10 TEL/FAX：042-360-3626



皆さんお元気ですか。コロナが少し遠のいたかにもえた期間は束の間でしたね。第7次にもなって何ら対策がないのかと怒りの声を多く聞くこの頃です。わの会の事業は、介護「あいあい、りんりん」「相談支援」「ネットワーク-ひとりぼっちを作らない」等、ケアワークが基本の事業です。わの会はこれまで以上に各方面の皆様方のお力をお借りし、それぞれが求められる役割を十分果たせるように努力してまいります。

私はこの4月からわの会のヘルパー養成講座または看護専門学校、大学など5箇所において私自身の難病ALS人生26年、NPO法人わの会19年目の介護論など、お話しさせて頂いております。もちろんこの場合の介護論は、法人みんなで培ってきたものです。私は講演の度に、新たな発見や学びを得、そしてその発見や学びは確実に私の生きる力のひとつとの思いを強くしております。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

NPO法人わの会理事長 佐々木公一



## 関谷榮子運営委員長より



年度のネットワーク運営委員長を仰せつかりました、生田目前運営委員長様からバトンを引き継ぎました。よろしくお願いたします。わの会ネットワークは、当事者ご自身がご自分の要求実現のために実践している活動的な集まりと伺いました。その通り、例会や運営委員会では様々な意見が飛び交います。これらを事務局の方々がチームワークよくまとめておられます。今年も第7波コロナ禍のなかで大変ですが、皆さんと力を合わせて参りましょう。

## 今までの活動の様子と これからの予定



コーディネーター 塩田 道子

コロナ感染の予防に努めながら、様々な活動に取り組んでいます。毎月一回の「小散歩」は府中市内の公園や美術館を訪れ、少人数で楽しんでいます。ネットワークわの会の会員さんは外出の機会の少ない高齢者・障がい者の方が多いので「家の中ばかりでなく出かけましょう！」の取り組みを進めていきたいと思えます。昨年度から更に活発に取り組んでいる事は「語る会」です。老いを語る会・視覚障がい語る会・介護を語る会・難病ALS語る会等々テーマは硬いのですが毎回参加の皆さんからは明るく、元気の出る話が飛び出します。



▲わの会畑



▲老いを語る会



▲7月18日の夏祭り(わの会事務所前)

この4月からは高齢者・障がい者の方々を対象とした月2回のお弁当配達を行ってとても好評です。作り手は会員のボランティアの皆さんです。

「困った時はお互いさま」を目標に会員さん相互の助け合い活動も試行錯誤しながら始めています。“足腰が弱っているけど、散歩したい一人では不安”という会員さんに散歩サポートをしています。

これらの活動は、月一回発行している会報「みんなでいこう」に予定なども含めてお知らせしています。



▲視覚障がい語る会



# 2022年度の取り組みについて

管理者 津田 久美

昨年はコロナのため戸外活動など行うことが少ない中で、室内でのレクレーション等のアレンジに勤め楽しいデイの継続を目指しました。

希望者の多い入浴ケアは可能な限り多くの方々への提供に努めました。今年はスタッフの増員、施設環境整備の課題をできる限り解決していきたいと思っています。

新しい風を運んでくださるボランティアの皆さんの力も得られますよう、ボランティア協会やご家族または法人内の他の部署の方々にもご協力をお願いしてまいります。スタッフの学びたい、スキルアップをしたいとの要望を十分叶えられるよう研修を重視して参ります。

まだまだコロナ感染が続き、その決め手がない中で求められるデイサービスの継続のために力を尽くしていきたいと思っています。



## ◆デイサービスについてご家族の声◆

男性の職員さんがいらっしゃることで、夫は安心感があるようです。また、看護師の皆様も愛してくださりありがたく思っています。私たちに寄り添っていただいていることが嬉しく思います。いつもありがとうございます。

以前にハーモニカをもってボランティアに数回行かせて頂いた時の“りんりん”の明るさを知り、夫の通う先は家から少し遠いのですがお願いしました。認知症が進み“りんりん”での様子を聞いても、今一つ様子が分からず残念です。黄色いノートにいつもランチメニューを書いて頂き、午前、午後の様子を知ることが出来て嬉しく思います。



## 府中第八中学校二年生の職業訪問とお礼の手紙

職場訪問学習に5名の八中生が来てくれました。コロナ前までは1週間程生徒さんが職業体験に来てくれましたが、今年は職場訪問学習として、訪問先でインタビューするとのことで、質問に上手く答えられるか緊張しました。後日、訪問学習に来た生徒さんたちからお礼の手紙が届きました。

- 6月24日と7月9日の投稿からの抜粋



### りんりんブログ更新中

デイサービスりんりんでは、利用者さんたちの日常の様子をブログで配信中です。月に数回更新を目指し投稿しています。是非、ご覧ください！  
☞QRコードを読み込んでください。





## 持続可能な介護提供のために

管理者 高橋 直子

当事業所は、医療的ケアが必要な難病患者や資格を別途必要とする視覚障害者のガイドの仕事を多く引き受けています。専門性の高いスキル取得のため、研修時間を長く要すること、代替が効きにくいことなどの課題も多いが、今年度常勤職員が1名増員され、利用者さんのニーズにこれまで以上応えられるよう、さらには登録ヘルパーの仕事が増やせるよう検討を重ねています。

10年以上勤務経験のあるヘルパーも増え事業所としては安定してきているが課題も増えている。ヘルパーの持続可能な介護提供のために年齢問題の解決（20代、30代ヘルパーの獲得、高齢化による課題解消の研修）に力を集中する必要があります。

### ヘルパーの資格取得に法人独自の努力

ヘルパーの痰吸引を可能にする講習会は例年東京都でおこなっているが回数が少なく受講したい時期に講習会がないなど、なかなか資格を得ることが難しくなっています。

資格補助の制度の中に、民間の痰吸引の研修受講料の補助等の検討を組み込み、働く環境と資格取得支援を行うことで、無資格者の人材確保に努めています。



### 研修事業

## 資格取得研修の必要性

研修担当責任者 森田 恵美

昨年度は、合計5回の開催となり58人が資格取得されました。中でも同行援護研修では市内全事業所に開催募集案内をしたところ、2事業所より申し込みがあり全員で6人が資格取得をしています。

重度訪問は、法人外で5事業所からの受講申し込みを受け、コロナ禍にあって介護事業所は人手確保の必要性が高くなっている様子が見受けられます。



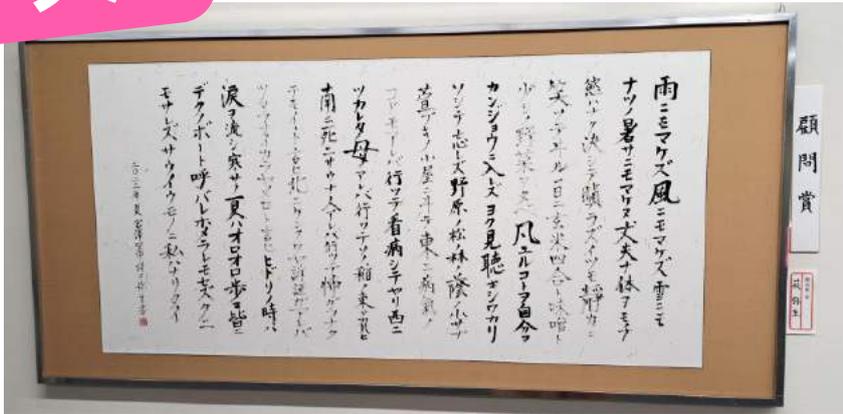
『介護とは何か考えなおす機会を得られた。佐々木さんの“受容”についてのお話を聞いて、ポジティブなイメージばかりだったが本当に考えている事は何なのか、しっかり考えた上で関わって行く事が大切なのではないかと考えさせられた。』  
(学生ヘルパー)

『文字盤の使い方が難しく離れすぎても近づけすぎても読み取りにくく苦戦しました。少しずつ読めるようになり楽しかったです。患者とコミュニケーションがとれるように努力したいです。実務者研修以来の講習でとても勉強になり新たに知ることたくさんありとても良かったです』

(現あいあいヘルパー聴講生)

# 雨ニモマケズ、風ニモマケズ

萩 弥生さん(あいあいヘルパー)



▲ヘルパー仲間と2019年夏(左が本人)

7月府中市内にて『府中市書道展』が行われ、2007年からヘルパーステーションあいあいの登録ヘルパーとして働いている萩弥生さんの作品が展示されました。題材は、詩人・宮沢賢治の有名な『雨ニモマケズ』、「仕事をしている時、よく思い浮かぶ詩なのよね」と言われる萩さんに今回インタビューしました。

## -有名な『雨ニモマケズ』を、ヘルパー目線で読むと感ずるところが沢山で…

ヘルパーになり15年、今でも雨風の時は“雨ニモマケズ、風ニモマケズ…”と気合いを入れ呟きながら移動しています。今回展覧会に出品することになり、改めて全文を読んでみたところ“スーッ”と胸に落ちる箇所があり、“書いてみたい”と決めました。冒頭の部分はもちろんですが、“東ニ病氣ノコドモアレバ…”では幼い(若い)利用者さんの顔が目の前に浮かび、“西ニツカレタ母アレバ…”では“あ～、昨日〇〇お母さんすごく疲れていたなあ～今日は大丈夫かな”と思い出し、毎回その辺りで“うるっ”となり筆が止まっていました。あまり深入りしてはいけない、感情はコントロールしなければいけない仕事だとは思いつつもまだまだです。そんなときは、“人間だもの”と呟きます(笑)“決シテ瞋(イカラ)ラズ イツモ静カニ笑ッテキル”サウイウモノニ私ハナリタイです。

余談ですが、私の作品の宮沢賢治は“堅治”となっています…実は長年のお付き合いの利用者さんの名前、「宮沢賢治

の字を何の迷いもなく堅治と書いてしまいました」とご夫婦に伝えると、奥様が「あら～書いて貰って光栄だわ」と笑ってくださいました。

## -ヘルパーになったきっかけはなんですか？

長女3才、次女生後1ヶ月で、親戚も知人もいない鹿児島に転勤になりました。主人は出張も多く、今で言う“ワンオペ育児”の毎日、お隣さんがとてもよくしてくださり人見知りも激しい娘もその方にだけ笑顔でした。“こんなよくしてもらって私は何も返せません”と言うと“私に返してくれなくても萩さんができるようになったら誰かにしてあげればいいのよ”と今でも鮮明に覚えていて、涙がでます。ヘルパーになろうと思ったのはその時のことがずっと忘れられずにいたからだと思います。“遠くの親戚より近くの他人(ヘルパー)”ですね。

## -ヘルパーを長年続けてきた秘訣は？

ヘルパーを続けてこれたのは周りの人に恵まれたこと。特に悩みを聞いてくれ、一緒に『喜怒哀楽』してくれ、オンとオフの切り替えに付き合ってくれる人がいるからです。



# 相談支援の取り組み



相談員 武田 櫻

重い障害があっても病院や入所施設以外でその人らしく暮らし続けるために、制度利用の面から支援することが計画相談です。現在の福祉制度は多岐にわたり複雑で、病気や障害で困難な状況にある本人や家族が自分でサービスを組み上げていくことがとても難しくなっている中、相談支援はその窓口として、ガイドとして役割を负っています。そして、その人の相談がここで途切れず次に繋がっていくための「断らない相談」をわの会相談支援は目指しています。

現在の登録者数97名で相談件数成人

275件児童40件、うち2021年は新規11件です。相談員は研修への参加、スーパーバイズの実施、定期的な会議の開催などを大切に取り組んでいます。今年度の課題は、介護保険サービスの利用につながるケースも増えてきました。改めて介護保険サービスとの連携を取るための知識が必要と感じています。さらに、医療ケア児への対応研修も求められています。今年度から複雑なケースに対応しつつ、求められる相談数も増やせるように、記録など事務作業の効率化を図ることを目的として相談支援ソフトを導入しています。



# 2022年度総会の報告

NPO法人わの会事務局長 志鎌 哲

去る2022年6月5日(日)“デイサービスりんりん”にて、わの会通常総会が開催されました。NPO会員35名の内22名の出席のもと、昨年度の活動報告と決算、今年度の活動計画と予算など一連の議案が審議され、それぞれ承認されました。

また、2年に1回の理事の選出が行われ、これまでと同様12名の理事が選出され、互選により佐々木公一さんが引き続き理事長に就任しました。

## 新理事・監事

- 理事 佐々木 公一
- 理事 竹村 清
- 理事 高綱 ミツイ
- 理事 佐々木 節子
- 理事 殿岡 登代
- 理事 志鎌 哲
- 理事 古泉 久美子

- 理事 関谷 榮子
- 理事 津田 久美
- 理事 林 工
- 理事 市川 裕
- 理事 高橋 直子
- 監事 小倉 典子



わの会

## 総会参加者の意見や要望

環

境整備が重要ではないか

介

護環境が良ければ介護者も本人も負担が小さくなる。

加

算などは手間がかかるが取っていったほうが利用者にとっても法人にとっても良い

福

祉を必要としている方で、光の当たらない人もいる。出たくても出られない人もいるので、なるべく多くの人に光が当たるよう活動してほしい。

勉

強が必要と感じる。2024年の介護保険改定では国民の負担がさらに増す。今まで無料だったものも有料化することで利用控えが発生するおそれがある。福祉を必要としている人に応えるためにわの会は足腰を鍛えたい。

現

在ICT導入に向けて補助金が出されている。コロナで対応の見直しが図られている今こそ、ICTに対応するチャンスではないか。

10

年後もわの会の活動が継続できるよう「これからの人」を主流にした活動へシフトする必要がある。現役間で徹底討論をしてほしい。

ボ

ランティア獲得への取り組みが重要ではないか。

老

人ホーム建設を継続してほしい。



# 2021年総括と2022年度計画

NPO法人わの会事務局長 志鎌 哲

## ◆ 難局に削られる福祉 ◆

2022年前半を振り返ると、新型コロナと戦争がとても大きな影を落としています。その中で国の予算は防衛費を増額する一方で社会保障費（年金、医療、介護費用）の自然増は圧縮されています。

特別養護老人ホームの夜勤人員配置を緩和し、1人で4人まで見られるようにしようというニュースが流れてきますが、このような無理でも「削る」目からすれば当然かもしれません。この流れは、障害福祉の分野にも繋がる事を危惧します。

また、少子高齢化による労働人口の減少はすべての業界に人材不足をもたらしています。ミリ単位の正確さと、優しく触れる繊細さと、全体重を動かす力を、知恵と工夫でコントロールし、ケアを受ける方の暮らしと安全を支える介護の仕事は、人間が関わる部分が非常に多くICT技術で補うにしても限界があります。そして相手は生身の感情を持った人間です。

介護や福祉において人材不足が他の業種と比べてより深刻な事態を招くことは明白です。人材不足から体制が整えられずにサービスが提供できないとして事業から撤退する事業所はすでに出てきています。ニーズはあるので大企業がその受け皿となり、利用者と事業者を吸収していますが、その大企業は「削る目」の視点で経営されています。

## ◆ わの会の挑戦 ◆

安心して生きること、自分らしく生きることが難しくなっていると言わざるを得ません。障害者、高齢者、児童、少数者など社会的に弱い立場であれば尚の事です。

この中でわの会は、工夫し挑戦し、新しい道を探っていますが、いよいよ、5年先、10年先にどのような道を進むのか問われているのだと思います。去年はコロナの影響から法人全体の収支も落ち込み初の赤字決算となりました。すべての事業の改善が求められますが、それは利用者のため、そして働く者のためでありたいと思います。

現在、ヘルパー事業は事業所を2つに分けることで、より多くのニーズに対応し、事業所内でのコミュニケーションの充実を図る事を目指しています。

自立支援ネットワークはコロナに対応した活動を模索していますが、その動きに賛同の声が広がっています。

デイサービスではリモート開催により定例会議の幅広いスタッフ参加が可能になりました。相談支援事業も二人体制となり相談件数が増え力をつけてきています。それぞれの挑戦がまとまって、大きな流れとなり未来に流れてゆくはずで、2022年はその方向性を見定める年としてゆきたいです。



特定非営利活動法人 **わの会**

府中市住吉町1-60-10

TEL : 042-360-3626

わの会HPはこちら→



## 【5つの事業】

- ①府中自立支援ネットワークわの会（自立支援）042-360-3626
- ②デイサービスりんりん（地域密着型通所介護）042-361-6001
- ③重度訪問介護従業者養成研修講座（研修事業）042-336-7445
- ④ヘルパーステーションあいあい（訪問介護）042-336-7445
- ⑤わの会相談支援（障害児・相談事業）042-319-2688